

(1)保存地区の概要

地区名 弘前市仲町

種別 武家町

面積 約10.6ヘクタール

選定年月日 昭和53年5月31日

特徴 弘前城の城下町は、南北に長く東西に短いほぼ矩形の弘前城を、自然地形を活かしながら四方から取り囲むように配置された。今は搦手門となっている北門(亀甲門)が当初の弘前城の大手門であり、その北側に亀甲町と呼ばれる一筋の町人町をはさんで、数か町の侍町が配置され、この侍町が「仲町」と呼ばれている。保存地区は往時の地割りをよく踏襲しているほか、道路沿いに連続するサワラの生垣、点在する門や板塀、前庭の樹木が独特の景観を生みだし、前庭の奥に建つ木造真壁造の主屋とともに城下町の雰囲気を残している。



●津軽地方を象徴する山、岩木山を借景にサワラ生垣、庭園樹木、伝統的建造物が構成する町並みが保存地区のイメージであり、長年住民によって大切に守られてきた。



(2) 保存地区のあゆみ

昭和51年	伝統的建造物群保存対策調査事業実施
昭和52年	保存条例、保存条例施行規則を公布
昭和53年	弘前広域都市計画決定、保存計画告示 重要伝統的建造物群保存地区選定 修理修景事業費補助金交付開始
昭和54年	弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会発足
昭和55年	旧伊東家住宅移築復原、公開開始
昭和58年	旧岩田家住宅修理復原、公開開始
昭和60年	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会開催 旧梅田家住宅移築復原、公開開始
平成13年	サワラ生垣せん定奨励金交付開始
平成21年	消流雪溝整備工事・無電柱化工事着手
平成22年	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会開催
平成25年	旧笹森家住宅移築復原、公開開始
平成27年	道路美装化(石畳風舗装)工事着手
平成28年	旧笹森家住宅、重要文化財指定
平成30年	保存計画見直し調査実施、多言語説明板設置
令和元年	消流雪溝整備工事・無電柱化工事完了
令和3年	保存計画見直し(保存活用計画策定)
令和5年	防災計画見直し(防災計画策定)

(3) 保存地区の保存と整備

修理修景事業(主屋、門、板塀)



(3) 保存地区の保存と整備

環境整備事業

- ・サワラ生垣せん定：サワラ生垣をせん定した場合、1mあたり1,000円をせん定奨励金として交付する

○せん定奨励金申請件数とせん定延長の推移

	R元	R2	R3	R4	R5
申請件数	47	52	51	48	49
せん定延長(m)	1537.0	1592.4	1550.4	1524.6	1515.8



- ・サワラ生垣修理修景：サワラ生垣の竹支柱の交換や、地区の景観に合わせて新規に植栽する



無電柱化工事：電線共同溝方式による無電柱化により、地区の歴史的風致を形成する岩木山を望む街路景観を向上。

消流雪溝整備：消流雪溝を整備し、地区住民による除排雪作業に係る負担軽減を図る。

施工前



施工後



(4) 保存地区の活用とまちづくり

・地区内の4棟の武家住宅を観光客や市民に公開している。



旧岩田家住宅(県重宝)



旧伊東家住宅(県重宝)



旧梅田家住宅



旧笹森家住宅(国重文)



・公開武家住宅の来館者は、新型コロナウイルス感染症が流行した令和2、3年度に激減した。終息に向かった令和4年度から徐々に回復し、令和5年度には令和元年度に迫り、今後も増加が見込まれる。外国人来館者数についても同様の傾向にある。

・外国人来館者数の割合は、統計開始の平成28年度は6.5%、以後上昇し令和元年には12.7%になった。令和2から4年度は1%前後に激減し、令和5年度には13.1%と令和元年度を超え最高となった。

・弘前市仲町伝統的建造物群保存会と大学・高校生が連携して公開武家住宅を会場に「町並みフェア」を開催し、来館者の増加やまちづくりに向けた取り組みが行われている。

(5) 住民等の取り組み



●弘前市仲町伝統的建造物群保存会 会長
重伝建地区選定当時、市担当者として携わる。行政と住民の間に立ち、地区の保存に向け協力をいただいている。

●地区住民の声
「仲町の特徴は地割とサワラ生垣にある。特にサワラ生垣は、地区の皆さんが毎年せん定しており、武家町の風情を今に残している」「電柱の撤去は、地区住民にとって長年の願いであった。サワラ生垣越しに岩木山を望むという、選定当時から大切にしていた仲町の景観のイメージが実現した。電線なしに眺める岩木山は格別である」